

HAPPY JAZZ TIME

100年ちょっと前にアメリカで生まれたジャズ。アフリカ音楽のリズムと西洋の音楽が融合して発展し、アメリカからヨーロッパへ・日本へ世界へ。様々な音楽が自由に混ざり合い、多様化し、伝統的スタイルも新しいスタイルも、どれもが発展し続けているジャズ。おおらかで自由に楽しい音楽、ジャズ。今年の「慈生会チャリティーコンサート」は、今、日本の様々な音楽シーンで活躍するクラリネット奏者 鈴木直樹がリーダーのジャズユニット「鈴木直樹&スウィングエース」が登場します。古いジャズ、新しいジャズ、昭和の和製ジャズ・・・皆様お馴染みのあの曲も、この曲も・・・Happyな時間をぜひお楽しみください！

「鈴木直樹&スウィングエース」

出演者プロフィール

鈴木直樹 (スズキナオキ)：クラリネット&サクソ

東京音楽大学付属高校卒。卒業後よりプロ活動を始める。クラリネットを佐野博英氏、内山洋氏に師事。サクソを松本英彦氏に師事。ジャズ・クラリネットは独学であるが、伯父・鈴木章治の演奏を幼少時代から身近に聴き、多大な影響を受ける。スウィング・スタイルをバックボーンに、デュオからビッグバンドまで多くの編成を率いて活動する他、ソリストとして国内外の多くのコンサートに出演。また自身のBig Band「鈴木直樹&Swing Ace Orchestra」を率いては、「愛・地球博」や、ホテルのディナーショー、コンサート等に多数出演。繊細かつバワフルな音色、正統的なスウィング・スタイルを継承しつつ、独自のスタイルを加味したスピード感溢れる演奏は、ジャズ専門誌(スウィングジャーナル)の人気投票でも多くの支持を得ている。またプロデュースとして「鈴懸の径」(伯父 鈴木章治演奏)などを中心とした懐かしい時代の名曲を集めたコンサート等、多くのコンサートを手懸け、2015年から「新城ジャズ」の音楽監督も務める。またマルチプレイヤーとしても知られ、クラリネット、サクソでスタジオ・ミュージシャンとしてジャンルを越えた多くの録音に携わっている。(RMAJ、NPO 日本レコーディングミュージシャンズ協会会員)近年は、クラシック作品の演奏にも力を入れる他、トルコの民族楽器、ターキッシュ・クラリネットの演奏も(NHK BSドキュメンタリー番組内)大きな注目を集め、その独自の世界観で、ジャズ、クラシック、現代音楽等々、演奏活動は多岐にわたる。著書：「Let's Swing for Clarinet Quartet」「Let's Swing for Saxophone Quartet」アルノ出版 他

青木 研 (アオキケン)：バンジョー

1978年千葉県流山市出身。7歳頃、二村定一などの唄う「ジャズ小唄」(君恋し、私の青空、アラビヤの唄)をはじめとする、蓄音機やそこから流れる戦前音楽に親しみ、それらの曲に使われていたバンジョーのサウンドに特に強い魅力を感じる。13歳で初めてバンジョーを手にしてから、ディキシーランドジャズで使われる4本弦のバンジョーをほぼ独学でマスターする。千葉県柏の東葛飾高校在学中より演奏活動をスタート。ライブハウス、ホール、イベント、テーマパーク、ホテル、レストラン、客船、内外ジャズフェスティバルやバンジョーフェスティバル、ラジオ、TV等で演奏。2010年、アメリカ・サンノゼのバンジョー大会にヘッドライナーとして、2011年、FIGA主催の全米バンジョーコンベンションに、2013年はハンガリーで開催されたジャズフェスティバルにソリストとして招聘される。バンジョー主体の演奏の他、数多くのディキシーランド/スウィングジャズの演奏家をはじめ、ブルグラス、ジャグバンド奏者、管弦楽団、吹奏楽団との共演、ソリスト、歌手等のサポートなど多岐のステージを通じ、楽しいステージングと華麗なテクニックで観客を魅了している。米JAZZ BANJO MAGAZINE、ALL FLETS、オランダBN/DESTEM誌、ジャズ批評社「ジャズ批評」JAZZLIFE誌、等で特集記事が組まれる。バンジョー奏法は、ディキシーランドジャズのスタイルはもちろん、当初からバンジョーソロ系の、エディー・ピーパディ、ハリー・リーサー、ペリー・ベクトルをはじめ、あらゆる奏者からの影響を受ける。日本では数少ない、ソリストとして演奏することのできるバンジョー奏者。



宅間善之 (タクマヨシユキ)：ビブラフォン&パーカッション

幼少の頃よりマリンバ奏者である父・宅間久善の影響を受け、マリンバを始める。高校在学中よりジャズに興味を持ち、マリンバと並行してビブラフォンを始め、高校卒業後、アメリカのパーカー音楽院に留学。在学中に上原ひろみ等と共演。2002年、Most Active Mallet Players Awardを受賞。近年は自己のグループ「Vibrasonic」で作編曲も担当し、首都圏有名ライブハウスで活躍中。初のリーダー作として、ファーストアルバム『diario ~ディアリオー~』を、LIVE LAB. から「宅間善之 Vibrasonic」のライブDVDを発売、東名阪でのリリースツアーも大好評を博す。また、女優 渡辺えりのコンサートツアーメンバーとしての活躍、編曲家としてグラミー賞を多数受賞したジャズピアニスト、デビッド・マシューズ、オカリナ奏者宗次郎との競演や、スタジオミュージシャンとして氷川きよしや富田勲氏の作編曲によるレコーディングも行う。ジャズ、フュージョンを中心にラテン音楽、クラブミュージック、演歌、ヒーリングミュージックなどジャンルを問わずに精力的に活動している数少ないマレット&パーカッション奏者である。

川畑 淳 (カワハタアツシ)：ピアノ

1972年宮城県生まれ。6才よりピアノを始める。中学、高校時代はバンド活動に傾倒。ベースとキーボードを担当する傍ら独学で音楽理論を学ぶ。専修大学経済学部入学後はジャズサークルに入部。ジャズピアノを独学で学びながらコントラスを谷克己氏に師事。卒業後ベニスタとしてプロ活動を始めるが徐々にピアノ・キーボード奏者へ転向。現在はライブ活動の他、宝塚、東宝、ホリプロ等のミュージカルオーケストラのメンバーとして活動中。ベーシストの感覚、リズム感を持ち合わせた演奏には定評がある。

魚谷のぶまさ (ウオタニノブマサ)：ベース

1964年生まれ。20歳で西山満氏に師事、88年からプロ活動を開始する。1989年の富士通コンコードフェスティバルでRay Brownトリオのツアークルーを務めたのを機に親交を深め、その演奏スタイル、人間性に傾倒し、踏襲する。現在、小曽根 実 Trioをはじめ、関西を代表するユニットにレギュラーベーシストとして参加する一方、自己のTrioでも精力的に活動する。2013年には「なにわ芸術祭 新人賞・なにわジャズ大賞」を受賞。その他、FMのDJからイベントコーディネーターまで、その才能は多岐に渡る。大阪芸術大学・非常勤「鬼」教員。

田中ヒロシ (タナカヒロシ)：ドラム

宝塚生まれ、尼崎育ち。17才で、ジャズピアニストであり、父親でもある田中正二トリオでプロデビュー。その後、高橋俊男(p)、田中武久(p)、市川秀男(p)、鈴木博(vo&g)など、様々なアーティストと共演しながら全国各地のジャズフェスティバル、ライブハウス、ラジオ、TV等で活動。また、多数のレコーディングにも参加。1991大阪ブルーノートにて今は無きジャズ界の巨匠、アート・ブレイキー急病の為、急遽代役で一週間のステージを務める。ジョージ・ベンソン(g&vo)等、海外ミュージシャンとのセッションも多数。現在、自己のトリオを中心に活動。安定したドラミングと絶妙なグルーブ感には定評があり、岸ミツアキ(p)などの在京ミュージシャンからの要請でも全国的にも活躍する人気ドラマー。岸ミツアキ(p)グループでは2003、2004、2006、2010、2015年のロシア公演、2008、ドイツ公演、2009年、韓国ツアー。2007年第15回中山正治ジャズ大賞・第44回なにわ芸術祭ジャズ部門を受賞。

「ベタニアの家」とは…

故ヨゼフ・フロジャク神父によって創立されたカトリック・ベタニア修道女会、社会福祉法人慈生会、学校法人東星学園の総称です。



※諸般の事情により、出演者・曲目の一部が変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

※開演に遅れますと、ご入場を制限させていただく場合がございますので、時間に余裕をもってご来場下さい。

- 電車・地下鉄 西武池袋線・西武有楽町線・都営地下鉄大江戸線(練馬駅)北口から徒歩1分
- 車の場合 「練馬駅」北口地下駐車場(有料)をご利用ください。 471台収容 / 30分ごとに200円 【お問い合わせ先】 「練馬駅」北口地下駐車場管理事務所 TEL / 03-3557-5190

練馬文化センター 〒176-0001 東京都練馬区練馬1-17-37 TEL: 03-3993-3311(代表)